

平成 20、21 年度
中期目標の達成状況報告書
(別添資料)

平成 22 年 6 月
滋 賀 大 学

目 次

資料 1	成績結果の分布状況の公表（申し合わせ）	1
資料 2	成績分布公開の取組推移	1
資料 3	教育学部における得点分布公表	2
資料 4	経済学部における成績分布公開	2
資料 5	クラス間格差の縮小	2
資料 6	共同研究室の設置状況	3
資料 7	目的積立金を財源とした研究支援（抜粋）	3
資料 8	G P 等終結支援事業	3
資料 9	教育研究支援基金による支援事業	4
資料 10	知的空間の設置状況	5

資料1

平成22年1月15日

滋賀大学における成績評価結果の分布状況の公表について（申し合わせ）

全学教育委員会
全学共通教育部会

1. 目的
成績評価基準の設定・明確化と厳格な成績評価の実施に資するため、成績評価の分布状況の公表等を行なう。
2. 公表の対象科目
成績評価結果の分布状況の公表等を行なう科目は、全学共通教養科目（受験者数が10名以下の科目を除く。）とする。なお、受験者数が10名以下の科目についても、「3. 公表する項目」の「(8) 優・良・可・不可の割合」を除いて公表する。
3. 公表する項目
成績評価結果の分布状況の項目は次のとおりとする。
 - (1) 年度
 - (2) 期間名
 - (3) 曜日・時限
 - (4) 科目名
 - (5) 担当教員名
 - (6) 受講者数
 - (7) 受験者数
 - (8) 優・良・可・不可の割合
 - (9) 成績評価の方法
 - (10) 成績評価の基準

4. 公表結果の活用
成績分布の現状を確認し、成績評価の妥当性について確認する。

5. 公表等の方法
ホームページ上又は冊子体で内部公表する。

6. 実施時期
平成21年度春学期分について、平成22年2月から

（ 出 典 ： 学 務 課 資 料 ）

資料2

成績分布公開の取組推移（全学集計）

		平成19年度	平成20年度	平成21年度
全学共通教養教育科目	科目数			62
	クラス数			62
教育学部	科目数	4	9	38
	クラス数	19	29	72
経済学部	科目数	13	39	135
	クラス数	30	93	256
計	科目数	17	48	235
	クラス数	49	122	390

成績分布公開の取組推移（経済学部の推移）

		平成19年度	平成20年度	平成21年度
コア科目	科目数	13	13	13
	クラス数	30	30	30
学科で学ぶ	科目数		6	6
	クラス数		6	6
外国語科目	科目数		20	20
	クラス数		57	66
体育科目	科目数			2
	クラス数			18
入門セミナー	科目数			1
	クラス数			43
学科専門科目	科目数		分布状況のみ(4)	93
	クラス数			93
計	科目数	13	39	135
	クラス数	30	93	256

- (1) 科目別・開講学期別に公開した数（同科目・同一学期開講については複数クラスをまとめて公開）

- (2) 科目別・クラス別に公開。ただし開講時限・担任者などの情報は非公開

- (3) 21年度は春学期の実績

- (4) 科目別成績評価の分布のみ公開（科目名未公開、履修者数30名以上）

- (5) 履修者数20名以上の科目

（ 出 典 ： 学 務 課 資 料 ）

資料 3

教育学部における得点分布公表について

右田 正夫

1. 目的および調査の概要

中期目標 No.9「教育効果の客観的把握と適切な成績評価を可能にするシステムを構築する」、および、それに対応した中期計画の No.25「成績評価の一貫性・客観性を確保する制度を構築する。成績の得点分布を公表する」に関して、教育学部の 21 年度計画は、「教育学部において、シラバスにおける成績評価基準の明示を引き続き進め、必要と思われる科目について成績の得点分布を公表する」と定められた。本報告では、この成績の得点分布公表に関して、公表科目の選択とその内容について紹介し、効果的な利用と今後の動向に関して若干の考察を加えたい。

教育学部では、平成 20 年度に「大学入門セミナー」・「体育 I」・「総合英語 I」・「カリキュラムと特別活動」・「教育・教職の意義」・「初等国語科内容学」・「初等算数科内容学」・「初等社会科内容学」・「初等家庭科内容学」の計 9 科目の受講者数、平均点、標準偏差を公表した。教育学部教員養成課程においては、1 年次に所属コースの決定を行う際に、外国語科目、教職科目、初等教科内容学、等の成績が勘案されることもあり、受講科目の平均点などのデータに対する学生の関心も高く、得点分布を公表する意義は十分に認められる。

しかし、今年度の教育学部教育改革推進委員会では、「公表科目が 9 科目では、学生側の要望に十分こたえているとは言えず、さらに多くの科目についてデータ公開をすることが必要である」との判断を下した。これに従い、今回公表するのは、平成 21 年度春学期に開講された 38 科目 72 クラスの得点分布である。これらの科目・クラスは、教養教育科目と教員養成基本科目の中から、同一科目で複数クラス開講されているものや、選択必修となっているものを中心に選択している（表 1、2）。

なお、今回公表するデータについて、述べておく必要があるのは以下の 4 点である。

- (1) 旧カリキュラム（平成 16 年度以前入学生用）該当者の成績は含まれない
- (2) 受講者数は成績が決定した学生を対象としており、「成績無し」は含まれない。
- (3) 外国語コミュニケーションは、実際には 6 クラスだが、成績が担当教員毎にまとめられ、クラス毎の集計は不可能なため、3 名の担当教員別に示す。
- (4) 平成 21 年度秋学期の成績については、成績入力期間の関係でこの報告書に掲載することができなかった。秋学期の開講科目については、教授会において、次年度の報告書で公表することが確認されており、平成 22 年度には通年データが公表できる予定である。

（以下、省略）

（出典：滋賀大学 FD 事業報告書 平成 22 年 3 月）

経済学部「専門科目成績分布の公開」の取り組みについて

—経済学部における成績評価の客観性・厳格性向上への取り組み—

小倉 明浩

はじめに 本稿の目的

第一期中期目標・計画期間最終年度における今年度、経済学部では、専門科目の成績の分布の公開を実施していくこととしました。この取り組みは、第一期期間における、成績評価の客観性・厳格性を確保するための取り組みの一つの到達点として行うものです。

この公開の目的は、各教員が行っている成績評価の状況を公開し、教員間、またサービスの受け手である学生に対する透明性を高めることを通じて、成績評価の客観性・厳格性の改善につなげることをねらいとしています。具体的には、個々の教員が、全体の動向を把握するとともに教員相互の参照の機会を提供し、それを各自の成績評価のあり方を再確認するための情報として活かしていくことを通じて、向上が達成されることを狙っています。

第一期期間中の成績評価の客観性・厳格性を確保するための取り組みは、以下のように進めてきました。

- ① コア科目の成績分布の公開
- ② コア科目における多角的に成績評価の厳格化・客観性の向上のための取り組み
 - ・チーム・ティーチングの採用による到達目標共有への組織的取組、
 - ・標準試験制度の導入
 - ・学生・教員の学習・教育支援のための条件の整備、を通じて図られてきました。
- ③ web シラバスの導入、到達目標・成績評価方法・観点についての詳細な情報を記載（平成 18 年度）
- ④ 従前からの取り組みと継承と改善
 - ・成績照会制度の運用改善（学生の成績に対する疑問をより具体的に記載させるように改善・・・平成 19 年度）
 - ・定期試験問題集の作成

以上の取り組みに加えて、平成 20 年度には、16 年度カリキュラム変更後の成績分布構造の大きな変動が落ち着いてきたことを受けて、

- ⑥ 科目カテゴリーごとの成績分布を、FD 報告書に公開しました。

以上の取り組みを踏まえて、来年度

- ⑦ 専門科目の科目別成績の分布の公開という取り組みを実施します。

本稿では、第二期において、成績評価の客観性・厳格性向上への取り組みがより発展させていくために、この取り組み実施までの議論経過と今後の課題についても整理します。

（以下、省略）

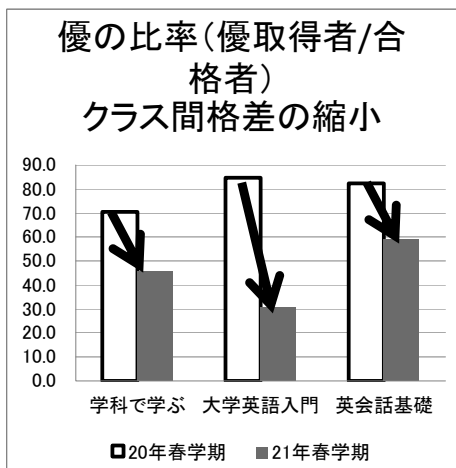
（出典：滋賀大学 FD 事業報告書 平成 22 年 3 月）

資料 5

クラス間格差の縮小（優の取得比率による）

複数クラス開講科目における各クラスの優の比率について、最大値と最小値の差分を比較

	20年春学期	21年春学期
学科で学ぶ	70.4	45.5
大学英语入門	84.7	30.5
英会話基礎	82.3	58.9



資料 6

共同研究室の設置状況

部 局	名 称	場 所	備 考
環境総合研究センター	プロジェクト共同研究室	経済学部校舎棟 3階	
産業共同研究センター	産学官連携室	産業共同研究センター	
	研究室	大津サテライトプラザ	
教育学部	e-learning 推進室	教育学部A棟 5階	現代G P
教育学部	琵琶湖学習推進室	教育学部B棟 5階	特色G P
教育学部	地域教育支援室	教育学部C棟 1階	
教育実践総合センター	演習室・資料室	教育学部D棟 2階	
経済学部 リスク研究センター	リエゾン・オフィス	経済学部研究棟 5階	
経済学部	サービスイノベーション推進室	経済学部校舎棟 3階	

資料 7

目的積立金を財源とした研究支援（抜粋）

部 局	設 備 名	支 援 内 容
教育学部	琵琶湖環境モニタリングシステム	特色G Pにより必修化された「湖上体験学習」における体験学習の充実・環境把握の向上
教育学部	ヘリオスタット望遠鏡観測制御装置一式	C S T事業として取り組んでいる実践的理科指導力の向上

資料 8

G P等終結支援事業

- ① 事業の趣旨 : G P等の競争的資金の支給を受けた事業が期間満了した場合、G P事業と教育改革の継続性を勘案して、必要な場合には1年間に限り学内資金を充当することがある。
- ② 事業の状況 : H21実績
- | | |
|--------------------------|------------|
| 特色ある大学教育支援プログラム（特色G P） | 2, 0 5 5千円 |
| 現代的教育ニーズ取組支援プログラム（現代G P） | 7, 9 4 5千円 |

滋賀大学教育研究支援基金による支援事業

○教育研究活動に関する事業概要

(1) 教育研究活動に対する助成

- ・女性研究者の教育研究活動に対する助成 [H21 より新設された助成]

事業内容：男女共同参画社会の実現という観点から女性研究者の特色のある教育研究活動・プロジェクトを支援することを目的

(2) 海外での調査研究活動や国際学会等への派遣に対する助成

- ・国際学会等で発表するための派遣に対する助成

事業内容：教員における海外での研究発表を奨励するとともに、若手研究者の活性化を図り、かつ、自己の研究レベルを向上させ、国際的な視野を広げることを目的

(3) 学術講演会等の開催に対する助成

- ・学術講演会等の開催に対する助成

事業内容：本学における学術講演会、シンポジウム、セミナー等の開催を奨励することにより、研究活動の活性化の推進を図り、研究成果等を広く社会へ発信することを目的

(4) 著書の出版に対する助成

- ・著書の出版に対する助成

事業内容：教員又は大学院博士後期課程在学者の学位の取得を推進し、学位論文の公表を広く図り、研究成果の社会への還元を資することを目的

(5) 国際学術誌への投稿に対する助成

- ・国際的に権威のある学術誌への投稿に対する助成

事業内容：教員が国内外で刊行される学術誌へ投稿することを奨励することにより、研究活動の活性化の推進を図り、研究成果を広く社会に発信することを目的

学生と学外者間における知的空間の設置状況一覧

滋賀大学街なか研究室

内容：学外団体と共同で、彦根市内の民家を活用して開設された滋賀大学街なか研究室において、学生自主企画プロジェクトや大学院生による研究成果の発表を行った。

街元気セミナー

内容：彦根市花しょうぶ通り商店街での、大学・学生との連携の取組事例から学ぶ一学生と花しょうぶ通りとの連携から、彦根市内3大学と商店街、市民等の連携へーにパネラーとして経済学部学生が参加した。

サテライトサロン

内容：教職員や在学生など大学関係者と卒業生や相互協力締結の県内自治体・教育委員会・商工会議所・金融機関等の役職員との相互交流会を行った。

サービスイノベーション人材育成事業

内容：経済学部サービスイノベーション推進室及び学生メディア工房（第17講義室を改修）においてイノベーション研究会、ジャーナリズム研究会を開催した。

教育学部創造学習センター

内容：教育学部に創造学習センターを新設し、その一部に地域社会活動への参画等を積極的に支援するためグループ学習室を設置した。

創立60周年事業

①記念講演会

内容：全5回にわたり彦根の近現代を切開いた地場産業等と題した講演会を開催され、講演会終了後には学生との意見交換が行った。

②ホームカミングデー

内容：卒業生と学生の交流の場を設け、地域における教育問題等についてコミュニケーションを図った。

びわ湖学生フェスティバル（環びわ湖大学コンソーシアム）

内容：琵琶湖湖上において客船を借り上げ、船上にて学生の相互交流、学生と社会人との交流を図った。